

神戸文学館企画展

生誕一〇〇年

渴不飲盗泉水

作家 島京子という生き方

2026年2月21日(土)～6月14日(日)

入館無料

※「渴不飲盗泉水」(かつすれどもとうせんのみずをのみず)
孔子が旅の途中、喉が渇いて泉まで来たが、「盗泉」という名を嫌って飲まなかったという中国の故事から、どんなに困苦していても不正・不義なことには手を出さないことをいう。芥川賞候補となった島京子の作品名。

誰よりも神戸の、
山と街を歩き、
人を想い、愛された、
小説家がありました。

写真:遺族所蔵

〒657-0838 神戸市灘区王子町3丁目1-2(王子動物園西隣)

TEL・FAX 078-882-2028

【休館日】水曜日、ただし5月6日(水)開館、翌7日(木)休館

【開館時間】平日:午前10時～午後6時 土・日・祝日:午前9時～午後5時

主催:神戸文学館

協力:北田香菜子、嶋秀穂、平松正子、富士重人、神戸エルマール文学賞記念基金委員会、同人誌「VIKING」、富士正晴記念館、鈴木商店記念館、神戸市文書館、神戸新聞社(順不同、敬称略)

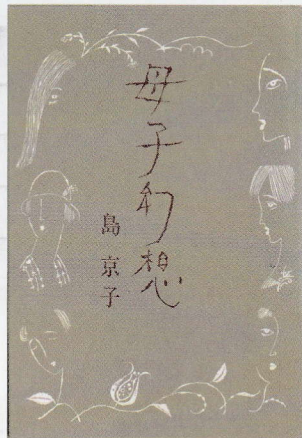


文芸同人誌「VIKING」17号例会の記念写真

1950年4月30日、大阪・塚塚山会館で撮影。後列右から2人目が島京子、4人目が久坂葉子。中列右から富士正晴、島尾敏雄。前列右から2人目が庄野潤三。
遺族所蔵

第2作品集『母子幻想』(1981年、構想社)

三島由紀夫『仮面の告白』、野間宏『真空地帯』など数多くの戦後文学の名作を世に出した編集者・坂本一亀が手掛けた。一亀は音楽家・坂本龍一の父。
遺族所蔵



島京子

1926年3月13日～2024年9月16日

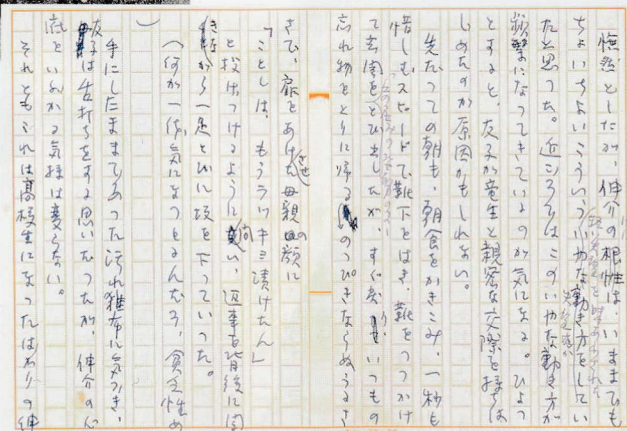
小説家。神戸市兵庫区生まれ。本名は嶋井子(しま・きょうこ)。神戸市立第二女子商業学校(現市立神港橋高校)を中退。

1968年『逃げた』で第1回三洋新人文化賞受賞。88年に神戸市文化賞、2001年には兵庫県文化賞、15年には同人誌の活動を支援する「神戸エルマール文学賞基金委員会」の代表として神戸新聞文化賞を受けた。98歳で死去。

神戸に生まれ暮らした小説家・島京子の生誕100年を記念した初の企画展です。富士正晴、島尾敏雄、久坂葉子らと共に同人誌「VIKING」で切磋琢磨。シングルマザーとして二人の子供を育てながら多くの作品を生み出しました。その底流にあったのは漢学者だった父への反発と、幼くしてたたき込まれた漢文の素養でした。主人公の父親を厳格で暴力的に描き、たとえどんなに喉が渇いていても「盗泉」と名のつく泉の水は飲まないという故事を語らせ、それをタイトルとした作品「渴不飲盗泉水」は1965年の芥川賞候補となりました。

一方、若手作家の発掘、育成にも尽力しました。同人誌作家を対象とする「小島輝正文学賞」(現・神戸エルマール文学賞)に、90年の創設時から中心メンバーとして携わります。また神戸新聞投稿文芸欄に小説・エッセー部門が設けられた86年から選者に就任し、ペンを執った読者に寄り添いました。飾らない人柄は広く愛され、文学界のみならず地元文化人のリーダー的な存在でした。

中央文壇から注目されながら、生涯神戸で書き続けた作家の足跡をたどります。



『母子幻想』の草稿

『母子幻想』のために、文芸誌「新潮」1970年4月号で発表した『揺れながら』に加筆した作品。手を入れた跡がうかがえる貴重な資料。
遺族所蔵



島京子の手製絵本「けいこのアイデア」

1987年に孫の姉妹へプレゼントした手作り絵本。実話をもとにした内容で、発行は「京子屋書房」として自宅住所を記し、「製本手製 非売品」としている。
遺族所蔵

〒657-0838 神戸市灘区王子町3丁目1-2(王子動物園西隣)
TEL・FAX 078-882-2028

- 交通案内：阪急電鉄：王子公園駅から西へ約500m
JR：灘駅から北西へ約600m
阪神電車：岩屋駅から北西へ約800m
市バス：王子動物園前から西へ約200m

■開館時間：平日 午前10時～午後6時
土・日・祝日 午前9時～午後5時

■入館料：無料

■休館日：水曜日(祝日の場合は翌日)

神戸文学館

